

第2章 郡上市産業連関表からみる経済構造

1. 郡上市産業連関表の作成フロー

郡上市産業連関表（以下「郡上市表」といいます。）は、図表2-1に示す作成フローに基づき、岐阜協立大学経済学部野崎道哉教授の助言を受けながら作成しました。なお、作成年次は全国表の最新年次と同様の平成27年（2015年）、作成単位は統合小分類（187部門）としました。

【図表2-1 郡上市表の作成フロー】

	中間需要	最終需要		移輸入	市内生産額
		市内最終需要（消費・投資）	移輸出		
中間投入	②	③	④		①
粗付加価値					
市内生産額	①				

①市内生産額の推計

総務省・経済産業省「平成28年経済センサスー活動調査」（以下、「経済センサス」といいます。）、総務省「平成27年（2015年）産業連関表」（以下、「全国表」といいます。）、岐阜県「平成23年（2011年）岐阜県産業連関表」（以下、「岐阜県表」といいます。）等の各種統計情報及び行政資料等を用いて部門別に市内生産額を推計しました。なお、経済センサスは総務省、経済産業省両省の承認を得て、調査票情報を利用しています。また、岐阜県表の使用にあたって岐阜県「県民経済計算」を利用した年次修正及び統合小分類の部門変更による修正を行いました。

②投入構造（産業連関表の縦方向）の推計

部門別に、経済センサスの調査票情報、市内事業者向けのアンケート調査及びヒアリング調査結果を基に投入構造を推計し、前述の情報がない部門及び詳細不明の部門は全国表もしくは岐阜県表の投入係数で補完する方法で推計しました。

第2章 郡上市産業連関表からみる経済構造

③市内最終需要（消費・投資）の推計

経済センサスの調査票情報、総務省「平成27年国勢調査」、総務省「平成26年全国消費実態調査」等の統計情報を基に合計額を推計し、全国表の構成比を乗じて各部門の数値を推計しました。

④移輸出及び移輸入の推計

輸出入は、市内事業者向けアンケート調査及びヒアリング調査結果、全国表の輸出入率等を用いて推計しました。

移出入は、市内事業者向けアンケート調査及びヒアリング調査結果、岐阜県表の（県外）移出入率、総務省「平成27年国勢調査」等の各種統計資料を基に推計した結果を1次推計としました。そのうえで、環境省「地域産業連関表」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）等を参考にして調整を行いました。

⑤バランス調整

①～④の推計後、部門ごとに「市内生産額＝中間需要額（中間投入額＋粗付加価値額）＋市内最終需要額＋移輸出額－移輸入額」となるようバランス調整をしました。なお調整の優先順位は「移輸出額・移輸入額」「市内最終需要額」「中間需要額」としました。

2. 郡上市の経済構造

(1) 郡上市経済の投入・産出構造

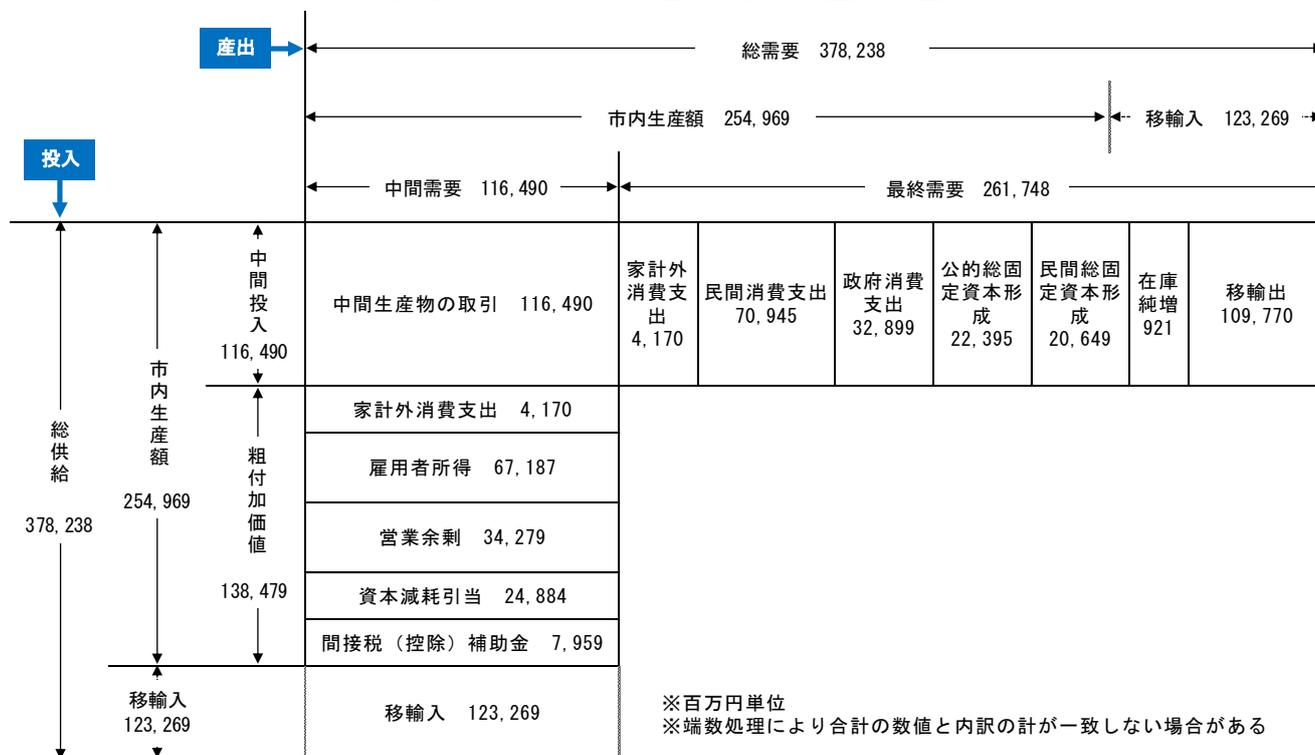
図表2-2は今回作成した郡上市表による投入・産出構造を示した図表です。図の縦方向が投入構造を示しており、市内生産額 254,969 百万円に移輸入 123,269 百万円を加えた 378,238 百万円が郡上市の総供給を表しています。

市内生産額のうち、市内外からの原材料等の購入を示す中間投入は 116,490 百万円で、粗付加価値は 138,479 百万円です。粗付加価値は労働力、資本等の生産要素に分配され、間接税や補助金等を除いた残余は営業余剰として計上されています。

続いて、図の横方向は産出構造を示していますが、産業連関表は縦方向と横方向がバランスをとるように作成されているため、総需要 378,238 百万円は総供給と同額となります。総需要は中間需要 116,490 百万円と最終需要 261,748 百万円から成り、最終需要には消費支出項目（家計外消費支出、民間消費支出、一般消費支出）と投資関連項目（総固定資本形成、在庫純増）及び移輸出が含まれています。

また、移輸出と移輸入の差額は域際収支と呼ばれ、地域経済の自立性を見る尺度として注目されていますが、郡上市全体でみると、域際収支は移輸入超過（移輸出 109,770 百万円－移輸入 123,269 百万円＝▲13,499 百万円）となっています。

【図表2-2 郡上市経済の投入・産出構造】



第2章 郡上市産業連関表からみる経済構造

なお、図表2-2からわかる郡上市経済の投入・産出バランスをまとめると、図表2-3となります。

【図表2-3 郡上市経済の投入・産出バランス】

◆ 総供給	=	総需要	=	378,238 百万円
◆ 中間投入	=	中間需要	=	116,490 百万円
◆ 市内生産額	=	総供給－移輸入	=	254,969 百万円
◆ 粗付加価値	=	市内生産額－中間投入	=	138,479 百万円
◆ 最終需要	=	総需要－中間需要	=	261,748 百万円
◆ 移輸出 109,770 百万円	<	移輸入 123,269 百万円		
	⇒	域際収支は移輸入超過	13,499 百万円	

(2) 郡上市経済の市内需要額と市内生産額の関係

図表2-4は郡上市における市内需要額と市内生産額（供給）、移輸出額、移輸入額との関係を図示したものです。

市内で生産した財・サービスがどのような主体にどれだけ販売されたのかは、需要が発生した場所によって「市内需要」と「市外需要」で区別することができ、産業連関表において市内需要額は中間需要額＋市内最終需要（消費＋投資）で、市外需要は移輸出額でそれぞれ表されます。したがって、市内需要額は中間需要 116,490 百万円＋市内最終需要 151,978 百万円で 268,468 百万円となり、市外需要額は移輸出額 109,770 百万円となります。これらを合計した額が総需要（378,238 百万円）となります。

なお、市内需要額 268,468 百万円には市外から調達した分（＝移輸入額）が含まれるため、「市内向け生産額」は市内需要額 268,468 百万円から移輸入額 123,269 百万円を差し引いた 145,199 百万円となります。

一方供給側からみると、市内で供給される財・サービスは、生産が発生した場所によって「市内供給」と「市外供給」で区別することができ、需要と同様に市内供給は市内生産額で、市外供給は移輸入額で表されます。したがって、市内供給額は 254,969 百万円、市外供給額は 123,269 百万円で、これらを合計した額が総供給（378,238 百万円）となります。

なお、市内供給額 254,969 百万円には市外で販売する分（＝移輸出額）が含まれるため、市内向け生産額は市内供給額 254,969 百万円から移輸出額 109,770 百万円を差し引いた 145,199 百万円となります。なお、市内向け生産額は需要側からみた額と一致しています。

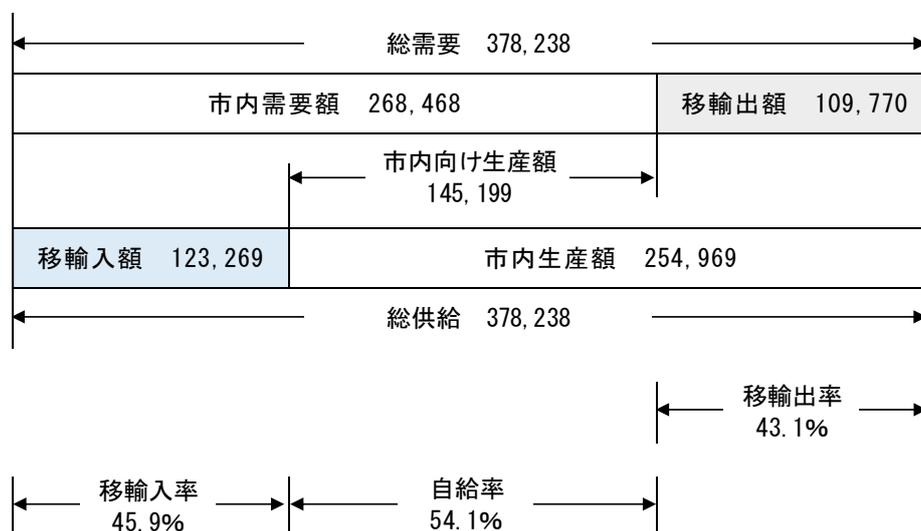
続いて、市内の経済循環を表す重要な市内生産額と移輸出額の関係、市内需要額と移輸入額の間をみてみます。

移輸出額は市内で生産された財・サービスを市外で販売した結果であり、市内生産額に占める移輸出額の割合を「移輸出率」といいます。郡上市全体の移輸出率を計算すると43.1%（＝移輸出額109,770百万円／市内生産額254,969百万円）となります。

次に、市内需要額と移輸入額の関係を見てみます。

移輸入額は市外から財・サービスを調達した結果であり、市内需要額に占める移輸入額の割合を「移輸入率」といいます。郡上市全体の移輸入率を計算すると、45.9%（＝移輸入額123,269百万円／市内需要額268,468百万円）となります。さらに、市内需要額に占める市内向け生産額の割合を自給率とよび、「1－移輸入率」で計算され、郡上市全体の自給率は54.1%となります。

【図表2-4 郡上市の市内需要額と市内生産額の関係】



なお、図表2-4からわかる郡上市経済の需要額・生産額・移輸出・移輸入のバランスをまとめると、図表2-5となります。

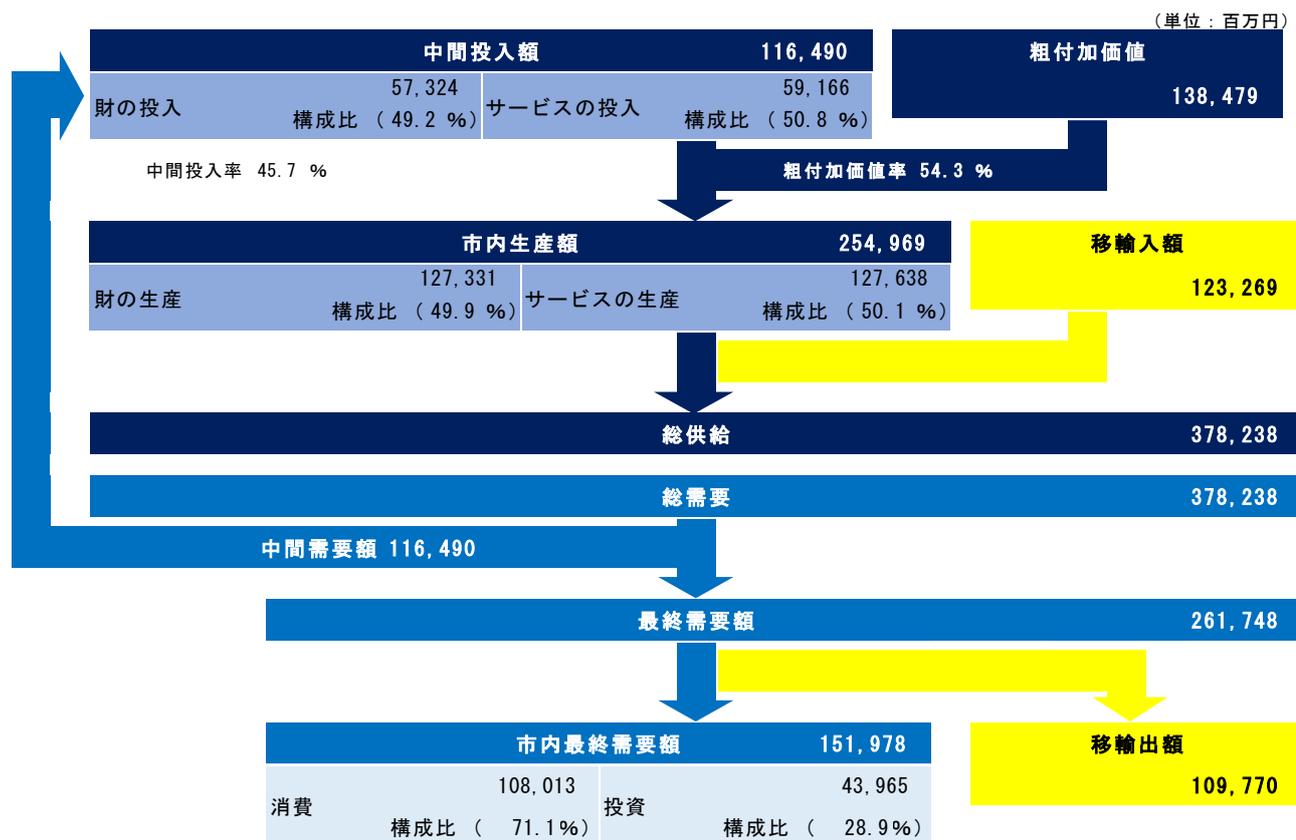
【図表2-5 郡上市経済の需要額・生産額・移輸出・移輸入のバランス】

◆ 市内需要額	= 総需要－移輸出額	= 268,468 百万円
◆ 市内向け生産額	= 市内需要額－移輸入額	
	= 市内生産額－移輸出額	= 145,199 百万円
◆ 移輸出率	= 移輸出額÷市内生産額	= 43.1%
◆ 移輸入率	= 移輸入額÷市内需要額	= 45.9%
◆ 自給率	= 1－移輸入率	= 54.1%

(3) 郡上市の経済循環

図表2-6は郡上市経済全体の財・サービスの流れ（フロー）を表した経済循環図です。紺色は投入構造（産業連関表の縦方向）を、青色は産出構造（産業連関表の横方向）を、黄色は移輸出及び移輸入を示しています。

【図表2-6 郡上市経済全体の財・サービスの流れ】



※端数処理のため内訳の計と合計が一致しない場合がある

※本図において、財は統合大分類の「農林漁業～建設」及び「事務用品」の合計であり、

サービスは「電力・ガス・熱供給業～対個人サービス」及び「分類不明」の合計である

※本図において、消費は統合大分類の「家計外消費支出」「民間消費支出」及び「一般政府消費支出」の合計であり、

投資は「市内総固定資本形成（公的）」「市内総固定資本形成（民間）」及び「在庫純増」の合計である

上から順にみると、郡上市では中間投入額 116,490 百万円と粗付加価値額 138,479 百万円を投入して 254,969 百万円の市内生産活動を行っています。なお、市内生産額に占める中間投入額の割合（＝中間投入率）は 45.7%であり、市内生産額に占める粗付加価値額の割合（＝粗付加価値率）は 54.3%です。

郡上市の総需要 378,238 百万円（＝総供給）に対して、市内生産額が 254,969 百万円のため、市外から 123,269 百万円分の移輸入をして需要を満たしています。

供給された 378,238 百万円の財・サービスは、中間財として 116,490 百万円が各部門に販売（＝中間需要額）され、残りの 261,748 百万円が市内で消費、投資や市外に移輸出（＝最終需要額）されています。

最終需要額のうち、市内で消費・投資等がなされた金額（＝市内最終需要額）は 151,978 百万円となります。市内最終需要額の内訳をみると、「消費」に 108,013 百万円（市内最終需要額に占める割合 71.1%）、「投資」に 43,965 百万円（同 28.9%）分の財・サービスが供給されています。